

R5年度		R6年度　事業所訪問（事例提供者の事業所を訪問し、主任相談支援専門員によるSVを通して個別事例の相談支援を振り返る）			
ケース点検（書面上の点検） 自立生活支援室で支援している事例の計画書およびモニタリング報告書を使用し、各主任相談支援専門員が評価表とアドバイスシートへ記入する形で検証を試行した。 ・点数付けや、受け取る側を意識した文章の作成が難しく、かなりの時間を要した。 ・点数化する評価ではなく、相談員自身の気づきの参考としてもらえる内容にしたい。 ・指導ではなく互いに質の向上を目指していく機会だと捉えている。 ・"評価表"等を一つのツールとして上手く活用することが大切。検証することだけではなく育成につなげていけると良い。☑ ・"検証"は、サポートィブなかわりを重視する（行政による「指導」「点検」とは違う）などの意見があがった。  令和6年度の課題】 相談支援専門員の資質向上に向けて、やりがいをもって支援を継続していくための、評価や指導的視点ではないサポートィブな仕組みづくりや、足立区モニタリング結果の検証の指標となるものの作成を検討する。 そのための手法として、主任相談支援専門員が事業所を訪問し、対面でスーパーバイズする中で、素材集めを行うことから始める。		第1回 10月28日（月）	第2回 11月1日（金）	第3回 12月23日（月）	第4回 12月25日（水）
	参加者	事例提供者及び事業所職員　3名 主任相談支援専門員　　　1名 基幹相談支援センター　　　3名	事例提供者　　　1名 主任相談支援専門員　1名 基幹相談支援センター　3名	事例提供者　　　1名 主任相談支援専門員　1名 基幹相談支援センター　3名	事例提供者　　　1名 主任相談支援専門員　1名 基幹相談支援センター　2名
	ケースの概要	知的障がい 女性　単身	知的障がい 女性　単身	身体障がい　医ケアあり 児童	精神障がい 女性　単身
	実施内容	相談員の気づきを促し、支援を振り返る。 （都の研修の手法に沿った方法）	個別ケースについてともに振り返る。	個別ケースについてふりかえりシートをもとにともに振り返る。進行役を配置。	個別ケースについてふりかえりシートをもとにともに振り返る。基幹も話し合いに参加。
	意見	・基礎情報の準備は厚労省から示されているサービス利用支援・継続サービス利用支援の標準様式、別紙1「申請者の現状（基本情報）」が良かった。 ・最終的に紙面でのお土産が貰えると良い。 ・書記役がホワイトボードに整理するとわかりやすいし、事例提供者の緊張が和らぐのではないか。（参加者として、事例提供者とSVだけでなく、事例提供者の事業所の職員、進行役、書記などが必要になる。人数が多いと場所の確保も難しい。） ・訪問されるよりも別の場所で行うほうが指導的な印象を軽減できるのでは？ ・SVはみんな受けたいのではないか。 ・主任が訪問してくれるのは小さい事業所にとっては力になることだけれども、効果的なSVを受けるのは訪問される側の力量も必要と感じる。 ・相談員をエンパワメントできる取り組みになると良い。 ・主任相談支援専門員は都の研修でもスーパーバイズを担っているため、都の研修の手法に沿ったやり方は主任相談支援専門員であれば対応可能な手法である。	・主任相談支援専門員が一人で対応することの不安や負担の軽減として、SVを複数で行ってみてはどうか。 ・枠組みがあるとやりやすいのでは。 ・事業所訪問される側にメリットになるお土産があると良い。 ・サービス利用計画に記載していない理由や思い等を汲める場があると良い。 ・相談支援専門員をエンパワメントできる取り組みになると良い。	・事例提供者に表明してもらうこと（ふりかえりシートに沿った振り返り）が大事だと感じた。 ・参加人数は少ないほうがいいが、事例提供者とSVの他に、進行役と記録がいるといい。 ・進行役と記録がどのくらい発言のが良いかは時間設定による。何人が話すかや持ち時間について共通理解できていると良い。 ・ふりかえりシートの項目はわかりやすかった。 ・SVをする立場からすると、ふりかえりシートを用いることを意識して書類の読み込みを行うので、より読み込みに時間を要した。 ・あるべきことのチェックというだけでなく、区の様々な取り組みを通して支援力を向上できると良い。 ・ふりかえりシートにセルフチェック欄もあると良い。	・支援の経過を複数の目で振り返る機会があるのは良い。 ・あえてサービス利用計画書に書かないことが本人への配慮や支援になっていることも多い。文字にできない部分を汲んでももらえるのは良い。 ・ふりかえりシートはわかりやすく、自身の支援を振り返るのにはとても良かった。 ・区の職員が加わり、一緒にすすめられる形は良いと思う。 ・特に準備するものが必要ないのも負担がなく良かった。 ・相談支援事業所ネットワークなどで繋がりがあると安心して参加できる。 ・同じような利用者の方を対応した経験があると、苦労しているポイントや細かな制度の内容などについて相談することができ、事業所訪問される側にとって満足度が高い。
	次回に向けて	・親しみやすいネーミングだと良い。 ・第3・4回でふりかえりシートを導入してみる。	・第3回では進行役を設ける。 ・第4回では複数体制で対応し、困りごとを共有する時間も確保する。 ・サービス利用計画に記載していない理由や思い等もふりかえりシートで汲める工夫をする。		

・最終的に紙面でのお土産が貰えると良い。

・書記役がホワイトボードに整理するとわかりやすいし、事例提供者の緊張が和らぐのではないかと。

（参加者として、事例提供者とSVだけでなく、事例提供者の事業所の職員、進行役、書記などが必要になる。人数が多いと場所の確保も難しい。）

・訪問されるよりも別の場所で行うほうが指導的な印象を軽減できるのでは？

・SVはみんな受けたいのではないかと。

・主任が訪問してくれるのは小さい事業所にとっては力になることだけれども、効果的なSVを受けるのは訪問される側の力量も必要と感じる。

・相談員をエンパワメントできる取り組みになると良い。

・主任相談支援専門員は都の研修でもスーパーバイズを担っているため、都の研修の手法に沿ったやり方は主任相談支援専門員であれば対応可能な手法である。